

「日々の暮らしは感謝とともに」

くにもと ひさよ

國本 壽代 様 (82歳)

「陶芸ができるここが気に入って」

阪神間8ヶ所の施設を主人とふたりで見学し、最後がゆうゆうの里だったの。廊下がきれいで、ちりひとつないのにはびっくり。主人は陶芸が好きで、陶芸のために播磨に山荘を建てて神戸の自宅と行き来していたぐらい。教室でも10年間教えていた。だから、陶芸ができるここを大変気に入ったの。入居してからは、陶芸を楽しむのはもちろん、気候の良いときはふたりで遊歩道を歩いたりしてゆったり里の生活を送っていたの。



相棒のカメラを持って

「今でも主人はいつも傍にいます」

でも、主人は入居1年足らずで亡くなってしまった。とてもとても残念だけど陶芸を楽しんでいる姿はずっと覚えている。

主人が亡くなってから4年が経つけど、毎日思いをノートに綴っているし寂しくはないの。夢でも会っていて「そっちはええかい?」と私が聞いたり、「時間があったらそろそろ美容院に行ってこいよ」と主人が言ってくれたり、いつも話をしているのよ。主人には本当に感謝しかないの。



クリスマスは私の誕生日です！

「大好きな自然を相手に写真三昧の日々」

多くの趣味の中でも写真歴は長く、カメラは26年も愛用している。里は素材がほんとに豊富で花や木の「美」が次々と展開する四季はとっても素晴らしい。花の素材だけでも、春には桃、梅、桜が順番に咲き、次に満開のつつじ、初夏になると藤のしだれから紫陽花へ移り、淡みどり、萌黄、茶褐色と日々衣替えが濃淡に進んでいくの。夏がくると緑が深くなり、日差しが強くなれば、森や庭の木々が涼風や木陰を届けてくれる。秋には、桜木、楓が鮮明な紅に染まり、見渡す限りの紅葉のパノラマになり、山肌が純白になる雪景色の冬の里は枯れ枝に白い牡丹が咲いたよう。表情が違うので1年を通して同じ場所を撮ることも多いの。花木の他、空の表情や雲が動いている瞬間、また力をくれる朝日を写すのも大好き。撮りたい!と思ったときは、いろいろな角度から様々に形を見定めて「きれいどころ」を焦点に写すの。10枚の内1枚、満足できるのがあれば良い方ね。

四季をくれる自然の力にいつも感動している。今は自然にも主人にも感謝の毎日。やっぱり感謝しかないの。だから主人には「そっちに行くのはもうちょっと後ね」と言っているのよ。

一句

秋風や 惜しまれて鳴る 鈴音いろ

お人柄もお声も穏やかで、一言ひと言丁寧にご話くださった國本様、「吉野、枝垂れ、ぼたん、山桜」と桜の種類を始め、花や木の知識の豊富なことにも感服しました。



自然がくれる四季に魅せられて